

【所管事務の調査（視察）】

(1)生田ふれあい広場等について

- ・資料1 生田浄水場用地の有効利用
- ・資料2 Anker フロントウン生田

上 下 水 道 局



1 生田浄水場用地について

昭和13年

水道事業の浄水場として給水開始

昭和37年

工業用水道事業の浄水場としても給水開始

平成28年

水道事業の浄水場としての機能廃止

将来において工業用水道事業の浄水場の

更新用地として活用するまでの間、

収益性の確保を前提として用地を有効利用

3



2 有効利用の基本方針

有効利用の対象用地（浄水場用地・配水池用地）

2つの「基本的視点」



6つの「基本的な考え方」

(1)環境に配慮した機能の導入⇒環境・再生エネルギー機能

(2)地域特性である水と親水性に配慮⇒緑と水にふれあえる憩いと語らいの機能

(3)配水池用地と隣接する特別緑地保全地区との一体利用

(4)市民ニーズを考慮した利用⇒緑豊かなスポーツ活用の機能

(5)水道事業及び下水道事業のPR機能の導入

(6)災害時の一時避難場所等への活用⇒安全・安心を守る機能

5

3 有効利用の進め方

○住民説明会の開催

○周辺町会・自治会など地域の方々との意見交換

基本方針、基本計画、整備計画の策定

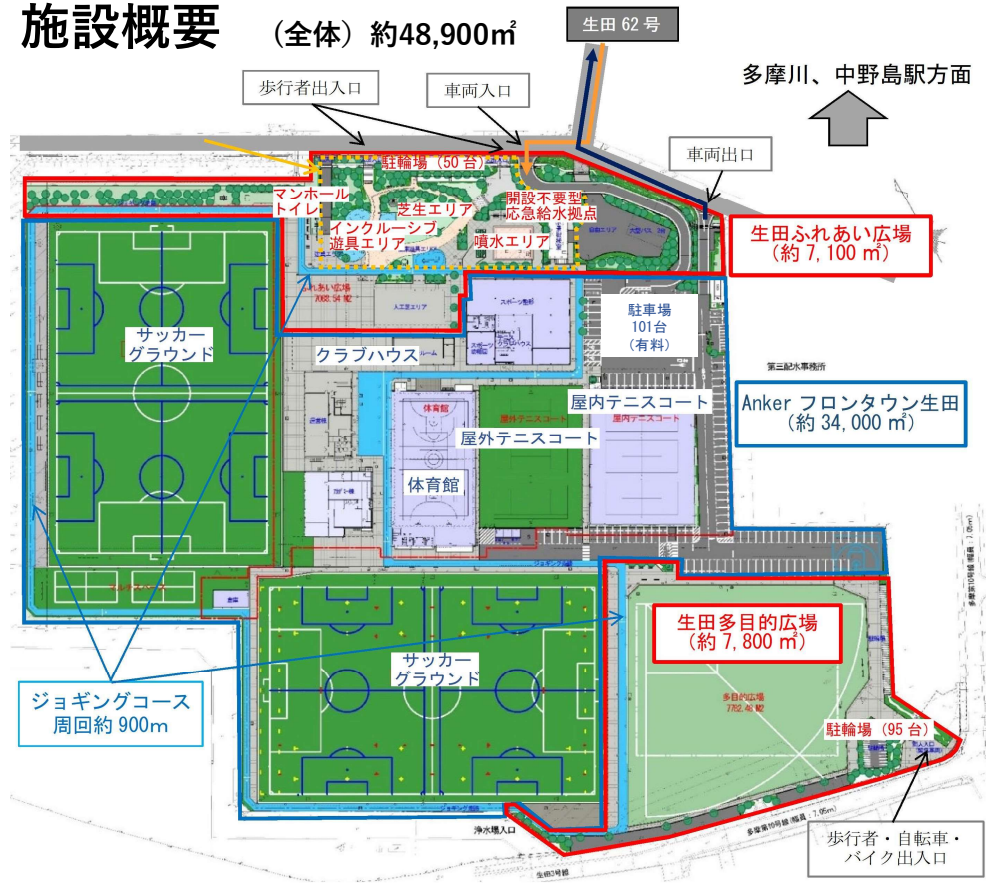
整備（期間：令和3年10月～令和5年3月）

令和5年3月25日 全面オープン！

6

4 施設概要

(全体) 約48,900㎡



7

生田ふれあい広場

利用時間: 7~17時
(6~8月は19時まで)



8

生田多目的広場

利用時間: 8~17時
(6~8月は19時まで)

地域のスポーツ活動、健康づくり

少年野球



少年サッカー



消防団訓練



地域の活動

9

ジョギングコース

全周 約900m

利用時間: 7~22時



10



災害時の一時避難場所

災害時には、全体を一時避難場所として活用

11



災害時の備え

蓄電式太陽光発電
照明灯(5基)

マンホールトイレ
(ふれあい広場5基)

開設不要型応急給水拠点
(ふれあい広場)

12

生田浄水場の沿革、役割を後世へ

生田浄水場

川崎市（当時の川崎町）は、一九一二年（明治四十五年）七月に、工業招致を「一〇〇年の町是とする」とし、工場の誘致を推進した。昭和初期には臨海部が飛躍的な発展を遂げ、人口が急増したことから、使用水量も著しく増加した。これに対処するため、多摩川の伏流水を水源として、多摩丘陵の一部、生田内の標高七十九メートルの高地（現在の生田配水地）に生田第一浄水場を建設するため、一九三四年（昭和九年）に工事に着手し、一九三九年（昭和十四年）に完成した。

また、京浜運河の開削及び臨海工業地帯造成に伴う埋め立てが着々と進められ、各種産業の進展は川崎市史上例のない飛躍的な発展を遂げた。それに伴い、更なる上水道の使用に対処するため、この地に生田第二浄水場を建設し、水源に菅地区の地下水を加え、一九四三年（昭和十八年）に給水を開始した。

その後、第二次世界大戦後の復興期、高度経済成長期においても、良質な水道水を安定的に供給し、工業都市・川崎の発展に大きく貢献した。

生田浄水場は、社会経済情勢が大きく変化する中、市民の生活、企業の産業活動を支え続けた。近年及び将来の水需要を踏まえ、給水能力を見直し、上水道事業の規模を縮小したことで、二〇二六年（平成二十八年）三月、工業用水道専用の浄水場としての役割を終るのである。

ここに、生田浄水場の建設にあたり土地を御提供いただいた地権者の皆様、運営等に御理解、御協力いただいた周辺住民の皆様をはじめとする関係者の方々への感謝の意を広く後世の市民に伝えるため、この碑を建立する。

二〇二三年（令和五年）三月

川崎市

生田浄水場の建設にあたり、土地をご提供いただいた地権者の皆様、運営等にご理解、ご協力をいただいた周辺住民の皆様などの感謝の意を広く後世に伝えるため、この碑を建立しました

Ankerフロントタウン生田

スポーツを通じた地域交流

アカデミーの拠点

テニスコート

アリーナ

保育学童施設



スポーツ保育園 寺部クラブ
Sports and Education

5 運営・維持管理体制

◆全体を民間事業者等が一体的に維持管理

施設	整備	維持管理
生田ふれあい広場	上下水道局	上下水道局 (川崎フロンターレに委託)
生田多目的広場		
ジョギングコース		
Ankerフロントウン生田	川崎フロンターレ	川崎フロンターレ

※多目的広場の利用調整は生田多目的広場利用調整会が行う

15



16

6 生田多目的広場の利用調整

地元団体の方々が「利用調整会」を結成し、利用調整を実施

(利用調整方法)

①地元優先団体

多摩区内で活動を行っている近隣の団体



地元優先団体全体で、
利用枠の6割が上限

②一般登録団体

市内在住、在学、在勤者が10名以上かつ代表者を含む構成員全体の2分の1以上であり利用調整会に登録を済ませた団体



抽選や利用上限あり

予約がない利用枠については自由に利用可能

17

7 交通安全への配慮

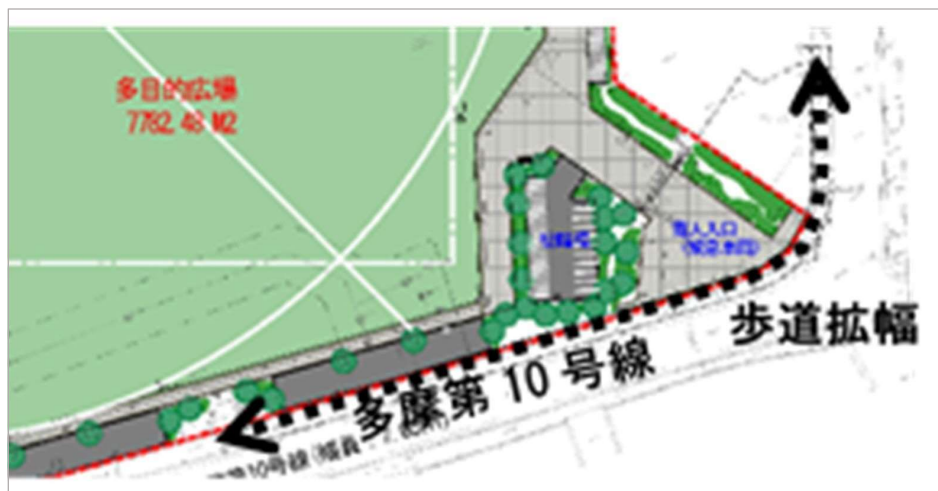
○歩行者の安全確保のため生田62号線の
両端1mをカラー舗装

○北側入口付近に横断歩道設置



18

- 敷地南側の多摩10号線に接する部分を
車椅子利用者がすれ違い出来るよう
歩道幅を2m以上に拡幅



19

- 8 生田62号線の利用を誘導
(土淵交差点からの侵入防止の周知を含む)

- 駐車場出口や駐車場内に表示や看板を設置
します

- 府中街道沿いへの看板設置等の検討

- ホームページでの周知の充実

20

9 有効利用に伴う収入と支出

収入 土地貸付料 約 5,800万円/年

支出 整備費 約 7億8,800万円

維持管理費 約 3,300万円/年

21

お問い合わせ先

川崎市上下水道局

サービス推進部長 岡 正

TEL. 044-200-3092 (内線46100)

サービス推進課長 佐久間 元

TEL. 044-200-3121 (内線46101)

22

Anker フロントタウン生田

住 所：川崎市多摩区生田1-1-1

アクセス：JR中野島駅・小田急生田駅 徒歩15分

駐車場：130台



多摩区“初”の活動拠点



施設コンセプト

◆アカデミーの拠点

- U-12、U-15、U-18が共に練習できるグラウンド
- 練習後すぐに暖かい食事を取ることのできる環境

◆市民に喜ばれるスポーツ活動拠点

- 誰もがスポーツに気軽に触れられる場とコンテンツを提供

◆ビジネス・理念などを発展する場

- 保育園と連携し、子供の運動能低下問題の改善
- 地域スポーツ医療の拠点として介護予防事業
- 日本初の「Jリーグ」「Bリーグ」協働の育成拠点

◆災害時の一時避難場所への活用

- 災害対応業務のための活動拠点として活用する

テナント連携

入居者同士の連携強化で
価値向上と経営安定をサポート

コンテンツ提供

サッカー
バスケットボール
テニス



スポーツ×幼児教育



管理栄養士による
サポート

地域連携

地域防災

明治大学・地域消防団

コミュニティ創成

多摩区役所
地域自治会
子育て支援組織

地域医療

整形外科
デイケア・デイサービス

キッズ大陸



学校法人三幸学園が運営し、全国に4校展開
「キッズ大陸」では、子どもたちの無限の可能性を引き出すきっかけとしてスポーツを捉えています。人間としての基盤が作られる幼児期に、スポーツを通じて得られる豊かな経験を積み重ねることで、自己肯定感や協調性、コミュニケーション力といった非認知能力の習得・向上へとつながります。

◇認可外保育施設（3～5歳児）

豊かな自然と充実した環境の中で、世界基準の教育プログラムであるIBの探究型学習と、プロフェッショナルな指導者によるスポーツ教育の両面から、グローバルに活躍できる子どもたちを育てます。

子ども自身の興味関心に沿った探究活動や、スポーツを通じた豊かな経験の中で、「自ら主体的に考え、行動すること」「他者を尊敬し思いやる心」「協力して答えを見つけようとする力」「学びを深めようとする意欲」といった人間力の基礎をバランスよく育み、自分自身の力で未来を生きていける子どもたちを育てていくことを目標としています。

◇学童保育（小学1～6年生）

さまざまなスポーツをプロから直接学べる、スポーツ特化型学童保育です。プロチームが運営するサッカーやバスケットボールのスクールや、体操、テニス等のさまざまな習い事を、学童保育と同一時間帯で、受講することが可能です。習い事はすべて施設内で行われ、指定ポイントまでの送迎もあるため、一人で移動することなく安全に過ごしていただけます。また、学童保育の中ではIST（総合型学習）プログラム等を通じて、問題解決能力やコミュニケーション力といった学習面でのスキル向上にも力を入れており、スポーツとの相乗効果による人間力の育成を目指しています。

給食室イメージ

50席

専用厨房完備（都市ガス）

※一般の方への食事提供は現時点は予定しておりません。



食事 業務委託先

会社名 株式会社 オリーブ&オリーブ

設立 2010年2月

代表者 福島利香

所在地 東京都渋谷区上原3-1-15

事業内容

料理教室監修、イベント企画運営

レシピ開発、料理撮影

マーケティング、事業デザイン

新規事業立上げコンサルティング

保育園給食事業

調理研修、衛生研修、献立作成

新規園厨房立上げコンサルティング

料理教室FromKitchen主催



olive & olive



プロフィール

料理を通して食卓から笑顔をつくる会社。

企業の商品レシピ開発、事業デザイン、コンサルティング、料理イベントの企画監修など食に関連する事業を展開。

給食事業では「家庭料理を給食で。」をコンセプトに発酵や旬の食材を使い日本食の大切さと

10年後のこどもの身体を考えた食事提供をしています。

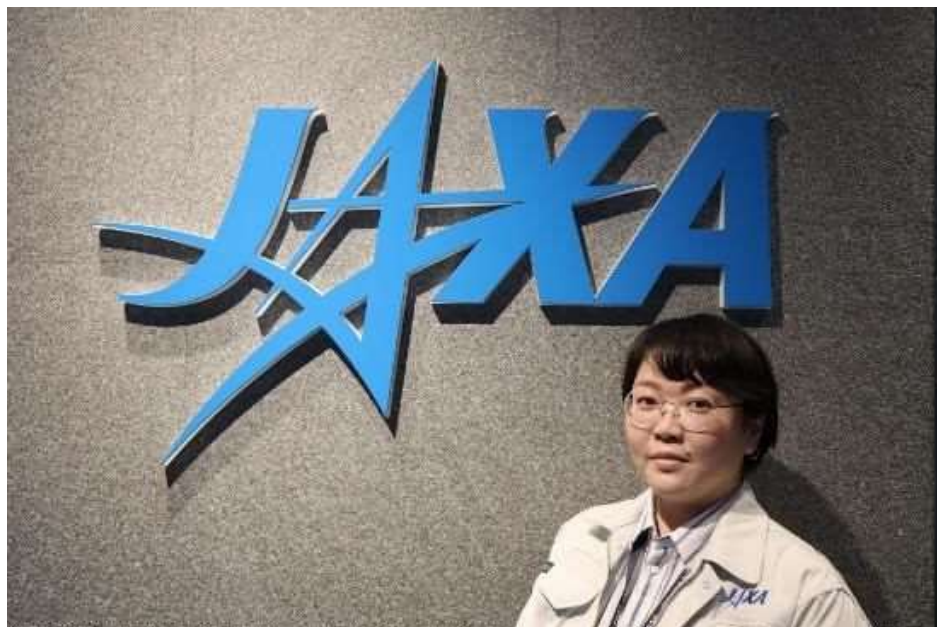
給食室 体制

管理栄養士/公認スポーツ栄養士 1名

管理栄養士2名

栄養士3名（内1名管理栄養士資格修得中）

メイン 管理栄養士



港屋ますみ

2021年5月2日（日）に宇宙から地球に帰還した、野口聡一宇宙飛行士の国際宇宙ステーション（ISS）滞在中の栄養管理を担当。日本人宇宙飛行士の宇宙滞在時の栄養管理を、日本人の管理栄養士が任されるのは初。国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）に勤務する傍ら、スポーツ栄養の専門家である「公認スポーツ栄養士」としてもフリーランスで活動。

プロフィール：

2006年大妻女子大学家政学部食物学科卒業後、学校法人の関連企業に勤務。大学や高校の学生食堂運営に携わり、寮に住む運動部所属学生への食事提供をきっかけにスポーツ栄養に取り組むようになる。その後、保育園勤務を経て、アスリートやスポーツチームにコンディション指導を提供する企業に勤務後、フリーランスとして活動。2018年よりJAXAに勤務。2023年に開業するフロントウン生田プロジェクトに参画。

提供スケジュール

カテゴリー	人数
U-18	約40名
U-15	約40名
U-12	約40名

基本提供：火～金

16:00-

練習開始

19:00-

練習終了

19:30-

食事開始

20:30-

食事終了



Anker フロントウ生田「グラウンドについて」

■ ロングパイル人工芝

- ① 従来の人工芝に比べて高い引き抜き強度を持つ【アストロリアル】という人工芝です。
- ② 植えつけ株を格子状にマトリクス配置することで縦横に十分な間隔を確保し、スパイクの引っ掛かりを軽減します。
- ③ 10 mmのアンダーパッドを敷設しており、転倒時の衝撃吸収性が確保されます。

■ 充填材

自然素材（ヤシ・コルク・コーン）を使用しております。化学物質を含まない自然素材製品のため、人体にも環境にも無公害です。万が一流出しても自然素材のため河川や海をマイクロプラスチックとして汚染する心配はありません。従来のゴムチップに比べ表面温度が 10 度以上抑制されます。

■ 散水設備

- ① 夏季の熱中症リスクが高まっていることを背景にフィールド面からミストを発生させ暑熱環境を緩和させる【フィールド冷却細霧システム】をピッチの外周に設置しております。
- ② スプリンクラーを設け、フィールド全面に素早く散水することが可能です。

■ 排水設備

人工芝グラウンド専用の高速排水材【NH ドレーン】を埋設し、非常に激しい雨が降った後でも短時間でグラウンドの使用が可能となります。マイクロプラスチックによる海洋汚染への対応、温暖化を背景にした暑熱環境対策や、集中豪雨の急増などの環境変動への対策を積極的に取り組んだ施設です。